

令和6年度第3回草加市地域公共交通会議 会議録

1 開催日時

令和7年2月4日（火）午後3時から

2 開催場所

草加市役所本庁舎7階7A会議室

3 出席者の氏名

(1) 委 員 草加市 高橋 理絵 委員（会長）

東京理科大学 内山 久雄 委員（副会長）

東武バスセントラル（株） 多田 聡 委員

朝日自動車（株） 田沼 健一 委員

国際興業（株） 國崎 健介 様（代理）

（一社）埼玉県バス協会 関根 肇 委員（オンライン）

（一社）埼玉県乗用自動車協会 三上 秀樹 委員

草加市町会連合会 加藤 茂 委員

（旧）草加市連合婦人会 大谷 久美子 委員

草加市すこやかクラブ連合会 小暮 徹 委員

つなぐば家守舎（株） 中田 亜希子 委員

（福）草加市社会福祉協議会 高橋 知之 委員

（福）草加市社会福祉事業団 下国 季樹 委員

国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局 坂井 貴夫 委員（オンライン）

東武バス労働組合 阪中 通秀 委員

埼玉県交通政策課 古川 雄哉 様（代理）

(2) 欠席者 草加市タクシー協議会 吉田 隆彦 委員

東武鉄道株式会社 小瀧 正和 委員

（公社）草加青年会議所 西方 卓也 委員

草加商工会議所 山崎 修 委員

草加警察署 木村 光 委員

(3) 事務局 草加市 川西市民生活部長

草加市 平木市民生活部副部長

草加市 浅川交通対策課長

草加市 柴田交通対策課長補佐

草加市 齋藤交通政策係長

草加市 集貝交通政策係主事

（株）東京建設コンサルタント 佐藤氏・小安氏

(4) 傍聴者 0名

4 会議の議題

(議事)

- ・パリポリくんバス新田ルートの試験運行評価について

(報告)

- ・パリポリくんバス3ルートの運行実績について

5 配布資料

(1) 次第

(2) 資料-1「パリポリくんバス新田ルートの運行評価について」

(3) 資料-2「パリポリくんバス3ルートの運行実績について」

(4) 参考資料「草加市地域公共交通会議委員名簿」

(5) 参考資料「席次表」

6 会議運営に当たっての諸事項

会議の録音および会議録の署名、公開について委員の了承を得た。

7 会議録の署名について

会議録の署名委員については、名簿順に持ち回りで会長、副会長と、代理の方を除いて上と下から1名ずつ指名させて頂くことになっているため、草加市町会連合会 加藤委員とつなぐば家宿舎(株) 中田委員が署名委員の指名を受けた。

8 議事 パリポリくんバス新田ルート of 運行評価について

○事務局

・前回の会議において、事務局から、本格運行への移行基準は満たしていないが、草加市地域公共交通計画の基本方針のとおり、将来にわたって持続可能な公共交通を形成し、誰もが移動しやすい公共交通環境を推進するため、新田ルートの利用実態に則した持続可能な運行形態を検討すべきではないかと提案を行った。

・主な意見として、「地域の貴重な移動手段となっているため、運行を継続すべきではないか。」「運行を完全に廃止することは地域への影響も大きいため、利用実態に合わせて減便をしてみてもどうか。」「運行評価の方法も現状の収支率のみで判断するのではなく、コミュニティバスの性質上、多角的な視点から複数の指標で判断することが良いのではないか。」との運行継続に関するご意見をいただいた。

・今後の方向性（案）として、現状、収支率及び1便当たりの利用者数が増加傾向にあることや、廃止してしまうと著しく市民サービスの低下を招くことから、試験運行期間を1年間延長して判断を行いたい。

・1年間の試験運行期間の延長を行うにあたり、利用実態に則して平日限定の運行を行うとともに、運行評価基準について、収支率以外の乗車人数等の多角的な視点から判断することがコミュニティバスの性質上必要と考えることから、草加市地域公共交通計画の運行評価基準の見直しも併せて検討したい。

○会長（高橋委員）

・事務局からの説明について何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

・事務局としては、利用状況も改善傾向にあることから、近隣の皆さまに、より一層ご利用いただくための啓発を行うとともに、コミュニティバスの在り方についても改めて考えたいということかと思えます。特にご意見が無いようでしたら、先程事務局から説明のあった方向性で進めるということによろしいでしょうか。

○一同

・異議なし。

9 報告 パリポリくんバス3ルートの運行実績について

・パリポリくんバス3ルートの利用者数・1便当たりの利用者数・収支率について報告を行った。

・北東ルートについては、前年同時期と比較したところ利用者数及び収支率が微減したが、南西ルート及び新田ルートについては、前年同時期と比較して利用者数・1便当たりの利用者数・収支率は増加した。

○会長（高橋委員）

・事務局からの報告内容または本市の交通全体に関わる内容について何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

○副会長（内山委員）

・パリポリくんバスの新田ルートについて、議論の内容が収支率になっていますが、本来の運行の目的は収支率を良くすることではなく、交通不便地域を解消することが目的であり、運行をすることによって交通不便地域を解消したかが問われるべきであると思います。

・利用者が少ないことばかり強調されるべきではなく、新田ルートを運行することでどれだけ交通不便地域を解消したのかを検証することが大事であり、利用者の100%が交通不便地域に住んでいる人であれば交通不便地域を解消したと言えるが、利用している人全員が交通不便地域に住んでいない人の場合、交通不便地域を解消したと言えるのかを議論する必要があります。今のところ交通不便地域を解消できておらず、赤字を垂れ流している、だから検討しようという命題に変わっているように感じてしまいます。

・交通不便地域の解消を目的に運行をしていて、結果交通不便地域を解消できていないということであれば市政の怠慢であり、お金に上限はあると思いますが、いくらかけてでも本来の目的である交通不便地域の解消のために運行を行い、交通不便地域を解消できたかを第一に検証すべきであると思います。交通不便地域が解消されておらず、交通不便地域に住んでいる人が全く利用していない状況で、たとえ黒字であったとしても目的を達成したとは言えないし、収支率ばかり議論されるべきではないと思います。

・交通不便地域に住んでいる人が本当に利用しているのか、交通不便地域を解消できているのかを検証してほしいと思います。そのため、新たな評価基準をつくることだけを考えるのではなく、初心に戻り本来の目的を達成しているかを第一の評価基準とすべきであると思うのですが。

○会長（高橋委員）

・市民の方からも様々なご意見を頂戴しますが、内山副会長のご発言の通り、パリポリくんバスの本来の目的に沿った運行になっているのかを改めて認識するとともに、目的を達成できているのかを評価基準の1つとして今後検討できればと思います。

○事務局

・評価の基準については、様々な視点があるかと思いますので、今後会議の場で皆さまにご協議いただきたいと考えております。

○多田委員（東武バスセントラル(株)）

・コミュニティバスの路線は、本来、バス事業者にとって採算性が無いことを1つの理由に運行を行っていない路線であり、そのエリアが交通不便地域となり、自治体がコミュニティバスを運行していることから、収支率のみで運行を評価するべきではなく、コミュニティバスを運行することで、交通弱者を救うことができているかを検証すべきだと思います。

○大谷委員（（旧）草加市連合婦人会）

- ・多くの高齢者がパリポリくんバスを利用しています。東京都とは予算規模が異なるので比較はできませんが、運賃をより安くすればパリポリくんバスを利用できるという人は多くいます。みんなお金があるわけではなく、本当は乗りたいけれども乗れない人がいるということを知ってもらいたいと思います。
- ・また、コミュニティバスはあれほど大きな車体ではなく、よりコンパクトな車両で小回りが利く車両であればより利用があったのではないかと思います。
- ・特に雨の日など、バスがあることで地域の人は非常に助かっています。バスを継続するために、本来の原点である交通不便地域の交通弱者を救うということをしっかり考えてほしいと思います。

○副会長（内山委員）

- ・バスを走らせるために無責任に要望書を出すだけ出して、その後は地域で関心をなくしてしまうのではなく、地域の人とパリポリくんバスを育てる必要があることを地域の代表の方には、地域の皆さまに申し上げてほしいと思います。

○中田委員（つなぐば家守舎(株)）

- ・一緒に住む80歳の父もバスを利用しており、何分後にバスが来るのかをスマホのアプリで検索して確認しますが、パリポリくんバスは検索にヒットしません。高齢の方もバスに乗る時は、普通にスマホを使って調べますし、パリポリくんバスも検索に対応できるようにすると良いと思います。

○事務局

- ・現在、時刻表等は市HPに掲載をしておりますが、利便性を高めるという点で情報発信の仕方は引き続き検討したいと思います。

○会長（高橋委員）

- ・その他ご意見が無いようでしたら、本日の会議は終了とさせていただきます。

以上

署名欄

つなぐば 家守舎(株) 中田 亜希子

草加市町会連合会 カロ 藤 茂